

I P 時代における電気通信番号の在り方に関する研究会（第 6 回）議事要旨（案）

1 日時

平成 18 年 2 月 6 日（月）14:00～17:00

2 場所

総務省 低層棟 1 階 総務省第 1 会議室

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

齊藤 忠夫（座長）、小菅 敏夫（座長代理）、相田 仁、五十川 洋一（代理 白澤 進）、
一井 信吾、伊東 則昭、沖中 秀夫、小澤 廣、風間 信男、河村 真紀子、郷右
近 一彦（代理 栗田 修）、櫻井 浩、志岐 紀夫、橋本 信（代理 栗野 友文）、
パスカル シナーブ（代理 ペレス ジョナサン）、比留川 実、藤岡 雅宣、山崎 吉
一（以上 18 名）

（2）総務省

須田総合通信基盤局長、渡辺電気通信技術システム課長、鈴木事業政策課長、門馬番
号企画室長、富岡事業政策課課長補佐、吉田番号企画室課長補佐

4 概要

（1）構成員の変更

今回会場から穴戸構成員に代わり、風間信男氏が参加する旨の連絡があった。

（2）前回の議事要旨の確認

資料 6 - 1 により、第 5 回会合の議事要旨について修正点などがある場合は総務省
に連絡することとなった。

（3）ワーキンググループの検討状況報告について

相田構成員から資料 6 - 2 - 1 に基づき、ワーキンググループの検討状況について
報告が行われた。

インターネット電話への転送について

総務省から資料 6 - 2 - 2 に基づき、インターネット電話への転送について説明が
あった。引き続き行われた議論の中で、主に次の意見が出された。

【ガイダンスについて】

- ・ガイダンスを入れることは必要だが、ガイダンスを聞いた利用者が、インターネット上の問題点について理解できるのか。そもそも公衆インターネット網を経由する問題点や危険性がわかるような告知策が必要。
- ・ガイダンスは、利用者が煩わしくないように簡潔にすべきという考え方もある。
- ・一般論として、発信者が加入している回線から別の事業者の回線に出るとき特に値段が高い回線に出るときには、必ずガイダンスを挿入すべき。

【発信者番号表示について】

- ・インターネット電話からの発信者番号（逆転送時）については、圏外となるのはよいが、転送元番号が通知されるのは問題。
特に、実はかけている人がどこにいるのか分からないのに、固定電話（0AB-J）の番号が表示されてしまうのは許容できない。
- ・発信者番号については、意味があるときにしか出すべきではなく、事業者が自信をもって表示できることが大前提。悪用される恐れがあるのであれば表示すべきではない。

これらを踏まえて、検討の方向性については基本的に了承され、本日の検討内容については、ワーキンググループにおいて引き続き検討を行うこととされた。

行政への問い合わせ用 1 X Y 番号について

総務省から資料 6 - 2 - 3 に基づき、行政に対する問い合わせ用 1 X Y 番号について説明があった。引き続き行われた議論の中で、主に次の意見が出された。

【具体的番号について】

- ・勤務先から居住地の市役所にかける場合を考えたら、市外局番 + 1 X Y がよいのではないか。
- ・行政区域と番号区域が一致しない場合の扱い等の問題については、自治体を交えた場での検討課題とすべき。
- ・市内通話料金でかけられない場合についても、同様に自治体を交えた検討が必要。
- ・単に番号を付与するというだけでなく、今後の課題としては、これを契機に自治体のサービス向上につながることを望ましい。

【1 X Y 番号の使用について】

- ・コールセンタ業務を外部委託する場合などは、公共目的の問い合わせ以外にも対応する可能性もあるので、用途を限定する必要があるのではないか。

これらを踏まえて、検討の方向性について基本的に了承された。

新規サービス受付への 1 X Y 番号の使用について

総務省から資料 6 - 2 - 4 に基づき、新規サービス受付への 1 X Y 番号の使用について説明があった。引き続き行われた議論の中で、主に次の意見が出された。

【NTT東西の市場シェアについて】

- ・固定電話でいえば 97.8% のシェアであるが、インターネットからの申込みなど、申込み受付窓口を幅広く設定している。
- ・固定電話以外の申込み受付が大きいのであれば、申込み方法別の割合などを示して頂ければ、今後の議論につながるのではないか。

【0120 番号による新規サービス受付について】

- ・圧倒的多数の NTT 加入者にとっては、新サービス = 116 であり、116 をかけると NTT の窓口につながることにに関して、不公平感はある。
解決策として、今まで出来たことができなくなることは不便だが、宣伝には 116 を使わないで、新しい番号を告知してもらうなどは適当ではないか。
- ・新規サービスについて、0120 番号による受付が好ましいとは思いますが、携帯電話や PHS からつながらないのは不便。全事業者の新規受付用 0120 番号について、携帯電話や PHS から着信が可能かどうか調査すべき。
その上で、原則的には 3 桁以外の番号を考え、利用者が不便にならないような方法を考えることとしたい。

これらを踏まえて、検討の方向性について基本的には了承された。

FMC に利用可能な番号について

総務省から資料 6 - 2 - 5 に基づき、FMC に利用可能な番号について説明があった。また、引き続き行われた議論の中で、主に次の意見が出された。

【携帯電話番号を使用する際の柔軟課金について】

- ・090 に発信して V o I P に着信したら、高い携帯電話の料金はとらないことがフェアであり、これを前提とすべき。事業者がずるいことをするためのサービスと思われないようにすることが重要。
- ・携帯網で位置情報を把握する場合には、固定網に着信しても料金は高くなる可能性があるので、その旨、ガイダンスで利用者に通知することが必要と考えている。
- ・V o I P に着信したら、携帯電話料金よりは安く設定する予定。結果的に料金が

安いところを利用者は選ぶだろう。

- ・ N T T 網の改修が関わってくるだろうが、N T T 側の対応は現実的なのか。
- ・ 携帯電話については、料金設定権は携帯電話側にあるが、N T T 網（発信側）で着側が固定か携帯かなどを料金明細書で細かくだせるかはわからない。
- ・ 明細書で個別にどこに着信したかが分からなくとも、通話時間から逆算して、料金が安くなった分を F M C 料金の部分として示す程度は可能ではないか。

W G での整理事項として、柔軟な課金については、技術的な対応の容易さ（N T T 網改修の規模など）等で、0 6 0 番号、0 5 0、0 7 0、0 8 0 / 0 9 0 番号、0 A B ~ J 番号で比較して欲しい。

【既存番号の使用について】

- ・ 番号ポータビリティの議論でも明らかなように、利用者に「番号が変わるのは不便」という認識はあるはず。既存番号の中でも 0 A 0 番号については抵抗が少なく、0 A B ~ J 番号は地理的識別などの期待感が大きいということだろう。議論の対象を新規番号 + 0 A 0 番号に絞れるのではないか。
- ・ F M C のサービスを「ロケーションフリー」と「リーズナブルな料金」と捉えれば、全く新規のサービスとしなくとも、080/090 番号でも、柔軟課金のシステムを作り込んだ上で、大差ないサービスができる。新規番号とともに、既存 080/090 番号も認めるべき。
- ・ 0 A B ~ J 番号の使用は、既存の固定電話しか使用しない利用者についても、その番号の信頼性を低下させることになり、問題がある。新規番号はよいとして、あと可能性があるのは 0 A 0 既存番号なのではないか。
- ・ 着側のユーザから見れば既存番号の継続利用のニーズはあろうが、発信側のユーザから見れば、サービス識別性の問題もあるし、公衆電話からの発信を考えれば、料金も課題はある。
- ・ 0 A 0 番号については料金のシステム的な検証を再度 W G でして頂いた上で、整理がつきそうだが、0 A B ~ J 番号については、料金に加え、動かないということに関する信頼性があり、地理的識別や、固定番号だと信用してくれるといった社会的信用性についても、どう評価するかが課題となる。
- ・ 利用者から見たときに、自分が契約した事業者が具体的にどのようにサービス提供しているかや、料金体系等の情報を開示すべき。

上記意見を踏まえ、料金やサービス識別などの観点でさらに議論を進めるため、ワーキンググループにて引き続き検討を行うこととされた。

まとめ

今回の議論で了承された方向性を踏まえ、ワーキンググループにおいて検討を行い、報告書案を作成することが了承された。次回会合の日程については、別途調整の上連絡することとなった。

以上